

特別支援教育学習指導案

指導者 井上 美由紀

日時 平成30年11月17日(土) 第3校時 13:15~14:05
年組 中学校第2学年3組 計4名(男子2名, 女子2名)
場所 中学校第2学年3組教室
単元 2学期がんばったねパーティをしよう!

単元について

本学級の生徒は、4名とも知的障害を有し、Eはダウン症、FはADHD、Gは自閉症を併せもっている。1学年時からいろいろな学習の場面で話し合い活動を経験することで、4人とも自分の思いに理由をつけて伝えることができるようになってきている。また、他者の思いを聞き、自分の思いと比較することはできるが、他者の思いをくみ取ろうとする姿は、あまり見られない。1学期の「自分たちが育てた夏野菜で、お弁当のおかずを作ろう」の単元では、4人それぞれが作りたい料理を調べ調理することを目標とし、生徒たちは学習活動に意欲的に取り組むことができた。「簡単デザートを作ろう」の単元では、4人それぞれが作りたいデザートを調べ、意見を出し合い、話し合ってメニューを2つに絞り調理することを目標とした。意見は出し合えるが、自分の思いを譲れず折り合うことが難しい場面があり、メニューは1つになった。2学期に入り、「2学期も頑張ろうねパーティをしよう!」の単元のメニュー決めでは、1学期の話し合い活動を振り返り、お互いの意見を伝え合いながら合意形成し、メニューを2つに絞ることができた。

本単元「2学期がんばったねパーティをしよう!」は、2学期最後まで、いろいろな学習の目標に向かってみんなで取り組むことができたなら、「みんなでがんばったね」と称え合えるパーティをしようということ動機づけにしている。そして、楽しく充実したパーティにするために、4人それぞれが作りたい料理を調べ、話し合ってメニューを決めたり、協力して調理し会食したりしながら、生徒が自分たちの力で情報収集し合意形成する力、協働し実践する力を高める活動を取り入れている。また、話し合いや課題を実践していく過程で、自分の意思を表そうとする主体性、他者の思いを理解した言動をしようとする多様性、課題に向かって協力してやり遂げようとする協働性を引き出し、相互に影響しながら学びを豊かにすることをねらうことができる。役割分担のある活動では、自分の役割を果たすことができた時の達成感、役に立てたという貢献感、それらを通じた自尊感情(自己肯定感、自己有用感など)の高まりや、他者もそれぞれの役割を果たし協力し合い完成できたという経験により、他者を認め尊重する思いを育むことができると考えられる。本学級生徒にとっては、調理は学習意欲が高まる活動である。

「お弁当のおかずを作ろう」や「〇〇パーティをしよう!」などの単元で、調理したいメニューを調べたり、話し合ってメニューを決めたりし、調理し会食することを繰り返すことで、単元や授業の流れの見通しがもてたり、活動を振り返り「次はこんな風にやってみたい。作ってみたい。」という新たな課題を、自分たちで見つかったりすることが期待できる。

指導にあたっては、「2学期がんばったねパーティをしよう!」の目的を明確にし、共通理解を図り、いろいろな活動場面で、「何のために、どのようにするのか」を問い、生徒自身が活動の意味や価値を理解して取り組めるようにしたい。授業の流れや話し合い方(意見を出し合う→比べる→まとめる)、活動時間を視覚的に示し、見通しがもてるようにする。また、話し合いの場面で思考の可視化をし、話し合いの状況理解を促したり、意見を比べやすくしたりし、話し合う内容が自分にも関わることとして考えられるようにする。話し合い→実践→振り返りのサイクルを繰り返し、話し合いのスキル(意見の言い方、聞き方、折り合う方法等)や課題発見・解決する力を高めていきたい。役割が必要な場面や主体性、多様性、協働性を引き出す場面を設定し、自己肯定感や互いに尊重し合う大切さ、共に協力してできたという成就感をもてるようにする。そして、生徒一人一人の言動や学級全体で取り組む様子を見守り、適時適切に肯定的な評価を行い、活動意欲をもち続けることができるようにする。

指導目標

1. みんなで「2学期がんばったねパーティをしよう！」という意識をもち、関わり合いながら、課題解決に向けて、取り組めるようにする。
2. 自分の意思を表し（主体性）、他者の思いを理解した言動をし（多様性）、話し合う中で合意形成し課題遂行しようとする（協働性）ことができるようにする。

指導計画（全10時間）

1. みんなで2学期がんばったねパーティをしよう！・・・1時間
2. パーティメニューを調べよう・・・・・・・・・・・・・・2時間
3. みんなでパーティメニューを話し合っ決めてよう・・・2時間（本時4/10）
4. みんなでパーティ計画を立てよう，準備をしよう・・・2時間
5. みんなで2学期がんばったねパーティを楽しもう！・・・2時間
6. 振り返ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

本時の目標 一人一人が意見を出し合い、比べ合い、パーティメニューを決めようとする事ができる。

本時に関わる、生徒の実態と個別の目標、支援

生徒	本単元に関わる実態	個別の目標（本時）	目標達成のための支援
E	自分の意見を伝えようとするが、課題内容から逸れたり、注目行動をしたりすることがある。見通しがもて、わかった、できると思えた課題では、意欲的に活動できる。	○自分の意見を他者に伝えるように話したり、他者の意見を聞き理解しようとしたりできる。 ○パーティの目的を意識しながら、合意形成しようとする事ができる。	○聞く・話す場面を明確にし、聞き方・話し方を意識できるようにする。 ○目的や授業の流れを視覚的に示し、話し合いの場面で思考の可視化をする。
F	自分の意見をはっきり伝えることができる。他者の意見を聞くが、思いを理解しようとしたり、譲ろうとしたりすることは少なく、自分の思いを通そうとすることが多い。	○パーティの目的や話し合いの目標を意識した言動ができる。 ○他者の思いを聞き、自分の思いと調整しながら合意形成しようとする事ができる。	○目的や目標を視覚的に示したり、必要に応じて言葉掛けしたりする。 ○必要に応じて調整方法を提案し、調整しようとする言動があった時に褒める。
G	意見のやり取りに時間がかかると情緒不安定になりやすく、話し合い活動に苦手意識がある。話し合いの流れや内容を理解し、見通しがもてると落ち着いて話し合える。	○パーティの目的や話し合いの目標を意識できる。 ○落ち着いて自分の意見を他者に伝え、他者の意見を聞き、最後まで話し合いに参加しようとする事ができる。	○目的や目標を視覚的に示し、適時言葉掛けする。 ○話し合いの流れを視覚的に示したり、話し合いの場面で意見や思考の可視化をしたりする。
H	自分の意見を伝えたり、他者の意見を理解しようとしたりできる。合意案を考えようとする事ができるが、賛同されない時は不機嫌になったり、意欲が低下したりする。	○パーティの目的や話し合いの目標を意識した言動ができる。 ○自分の案に賛同が得られない時でも、前向きに最後まで話し合おうとする事ができる。	○目的や目標を視覚的に示したり、必要に応じて言葉掛けしたりする。 ○案を傾聴し、「みんな」で決める良さや価値を意識できる言葉掛けをする。

学びを豊かにするための手立て

- 生徒が自ら考えたいくなる課題，あるいは考えざるを得ない課題を提供し，学習の動機づけをする。
- 活動の目的を明確にし，生徒自身が活動の意味や価値を理解して取り組めるようにする。
- 関わり合いの中で，生徒の主体性・多様性・協働性を引き出す場面設定や言葉掛けをする。
- 学習内容を振り返り，その成果と課題を，次の学習で活用できる場面を設定する。
- 視覚的支援で見通しをもたせたり理解を促したりし，主体的に学習に向かえるようにする。

学習の展開

学習活動 (□) と評価 (◆)	指導上の留意点 (・) と支援 (■)
□本時の目標と内容を確認する。	■本時の目標と内容を板書し，見通しや意識をもちやすくする。
□メニューの条件を確認する。 □調べた料理メニューを発表し，出し合う。 ◆話し方・聞き方を意識し，意見を出し合っているか。 □意見を比べ合う。 ◆会の目的や条件を意識しながら，比べようとしているか。 □意見をまとめ，メニューを決める。 ◆意見の違いを認め合い，折り合いをつけながら合意し，メニューを決めることができたか。	■条件のポイントを隠して提示し，意識付けをする。 ・話し方・聞き方のポイントを視覚的に示したり，発表し合いやすい雰囲気作りをしたりする。 ■思考の可視化をする。 ・一人一人の思いを大切にくみ取り，必要に応じて，目的や条件を確認し，意識できるような言葉掛けをする。 ・全員が合意できているか確認し，必要に応じて，折り合う方法を考えるよう促したり，提案したりする。
□決まったことを確認し，振り返りをする。	・自分たちで決定できたことを称賛し合う雰囲気作りをする。 ・話し合いの中での自分や友だちのよさや，話し合いをよりよくするためにどんなことを進めたかななどを発問する。 ■話し合う姿を具体的に評価し，自己肯定感が高まるようにする。

準備物

メニューの条件表，料理メニュー，話し合い順序カード，意見カード (いいね・どうかな)，聞き方・話し方表

座席表

